特別企画

Web 授業と対面授業によるハイブリッド型授業で 1 年生に大学での学び方を伝える

新型コロナウイルス感染症拡大の中での授業の工夫
ー 1 年生必修 2020 年度看護学生のためのリテラシーの場合ー

千田みゆき，金子　優子，千葉今日子

Ⅰ．はじめに

2019 年冬季より新型コロナウイルスの感染が拡大し始め，大学も学生の海外渡航を禁止し，卒業式を中止した．しかし，感染状況の悪化により，さらに入学式を取りやめ，学生の登校も禁止した．保健医療学部では，これに並行して遠隔授業の準備を進め，1 年生に対しては，4 月 27 日に Web での新入生オリエンテーションを実施した．1 年次の必修科目である「看護学生のためのリテラシー」の授業は，5 月 11 日から Web で開始された．埼玉県の自粛要請は 5 月 25 日まで続いたため，対面での授業は 3 週間後の 6 月 15 日からとなり，1 年生は 6 月 16 日の学科オリエンテーションからの開始となった．

上級学年と比べ，1 年生は大学の授業についてイメージが持てないまま，登校できないこととなった．ガイダンスも Web で行われ，学習の方法がわからないうちに授業が進み，友人と親しくなる機会もなく，教員から発信される授業を一方的に受講する状況であったと思われる．教員や同級生にわからないことを聞くこともできず，授業についていけなくなってしまう危険や，大学で学ぶという未知のことに対する漠然とした不安，実家を離れ慣れない場所で生活をすることへの不安を抱える学生もあり，1 年生には特に精神的なサポートが必要であったと考える．一方で，経験したことのない教育方法に教員も手探りで挑戦しており，学生を十分にサポートすることは困難であった．

そこで，以下に今年度の「看護学生のためのリテラシー」の授業を振り返り，次年度の授業に生かしたいと考える．

Ⅱ．授業の概要

1．授業の内容と進行（表 1）

授業は，1 単位 15 時間（全 8 回）である．自己洞察と成人学習を学び，看護に必要な計算力，文章作成やコミュニケーションに必要な能力を養う内容で構成されている．

2．今年度の授業方法

1）Web 授業における工夫

8 回中 6 回を，ラーニング・マネジメント・システム「WebClass」と Youtube による動画配信での Web 授業で行った．

初回と第 2 回は，看護の現場で必要な数学と理科を学ぶ内容である．例年は，計算問題の答えの部分を消した講義資料を配布し，授業中に OHC 上で，実際に問題を解きながら解説を行い，学生自身に式や答えを書かせる，また，表からグラフを描かせる課題を出すなど，学生が手を動かす講義資料や課題を作成してきた．今年度は，動画配信により，(1) 事前に WebClass 上に講義資料を掲載（計算問題の答えの部分は消した資料），(2) 授業時間開始時に WebClass での出席確認と講義動画の配信 URL を開示，(3) 授業時間内に提出させる課題を WebClass 上に提示（数字を記入させる形式の計算問題），(4) 授業終了後に提出させる課題を WebClass 上に提示(帯グラフを描いたノートの画像を提出する課題や，数字を記入させる形式の計算問題)，(5) 後日，提出させた課題の講評を各自の課題ページに返信するとともに，全体講評を WebClass 上に資料として提示した．これらは，計算問題を解いてから授業に臨み，メモをとりながら講義動画を視聴し，視聴後はすぐに WebClass 上の課題を解き，復習を兼ねた課題を後日提出することを期待

受付日：2020 年 11 月 3 日　　受理日：2021 年 1 月 14 日
埼玉医科大学保健医療学部看護学科

表１　看護学生のためのリテラシー授業内容　2020 年度

回	形態	授業の概要
1	Ｗｅｂ授業	文献や統計資料の検索方法、統計図表の読み方・書き方を学ぶ。基本単位と実用的な単位の換算方法を身につける。
2	Ｗｅｂ授業	看護に必要な濃度、圧力、輸液量や速度、輸液中の薬物濃度、酸素ボンベの残量の計算をする。
3	Ｗｅｂ授業	成人学習理論を学び、成人学習者として自己洞察と生涯学習の意義を学ぶ。
4	Ｗｅｂ授業	他者の理解と尊重する倫理観を基盤に、援助的関係を築くことの意義を学ぶ。
5	Ｗｅｂ授業	レポートの構成と作成上の留意点を理解し、正しい日本語文法に沿って文章を校正する。
6	Ｗｅｂ授業	研究論文の構成と作成上の留意点を理解する。研究の倫理的配慮について学ぶ。
7	対面授業	ディベートを通して、論理的および批判的思考の重要性を理解し、根拠に基づいて論理的に説明することの意義を学ぶ。
8	対面授業	ディスカッションを通して、これまでの学修を振り返り、学習目標の到達度を自己評価する。発表とレポートの作成により、今後の自己の目標と学びたいことを明確にする。

した授業構成である．授業時間中は，学生の WebClass へのアクセス状況や課題の実行回数，正解率などを管理者サイトから見守った．さらに，Web 授業開始直後の授業であったため，WebClass の使い方やネットワークのトラブルに関する学生からのメールでの質問への返信，講義終了間際になっても課題への取り組みを開始しない学生への警告メールの送信なども行った．この２回については，前期定期試験期間に対面での筆記試験を実施した．５月の授業から９月の試験まで時間が開くため，授業内課題や授業終了後課題を，復習課題として WebClass 上に再掲載し，試験前日まで繰り返し行えるようにした．

次に，本来なら初回に行う「成人学習理論からみた自己洞察と生涯学習の意義」と，第２回の「他者の理解と尊重を通して，援助的関係を築くことの意義」に関する授業を第３回と４回，レポートの書き方，研究論文作成上の留意点と倫理的配慮を第５回と６回として配信した．本年度は，数科目の Web 授業が始まった中での開始であったので，同時期に進行している科目や既習内容を想起させるとともに，学生が自分のこととして学習内容をとらえ，自己の学習成果に期待できるよう留意した．学生が自身を振り返ることができるよう平易な言葉で問いかけ，看護学生のアイデンティティ尺度，社会人基礎力の尺度を用いて，入学時の自己を知る機会となるようにした．スライドの作成や提示資料についても，少し挿絵を入れ，キーワードとなる言葉を絞って，繰り返しその言葉を使って表現し，さらに，その時間ごとに課題を提示することによって印象づけるよう心がけた．また，第５回と６回の授業では，予め配布した資料には空欄を設け，授業を視聴しながら空欄にキーワードを書き込めるようにし，授業後はミニテストを指示した．

2）対面授業における工夫

第７回と８回のディベートとディスカッションによるグループワークは，対面により行った．登校時は，教室入室前に健康チェックと検温，２週間以内の生活行動チェックを行い，手指消毒を指導した．学生は自分が使用する机といすをクロスで消毒し，間隔をあけてグループごとに着席した．授業は教室の窓を開けたままで行い，学生はフェイスシールドとマスクを着用した．登校してすぐに授業に取り組めるよう，資料は事前に配布し，対面授業前の Web 授業の中でも簡単なオリエンテーションを行った．対面授業当日，学生は静かに説明を聞き，その後，積極的にグループワークに取り組んでいた．教員は通常の授業同様，グループを回って助言し，タイムキーパーをした．同じ内容の授業を２回行ったが，通常の半数の学生で授業が行えたため，授業の進行はスムーズにでき，学生も同級生とディスカッションできることを，大変楽しんでいる様子であった．

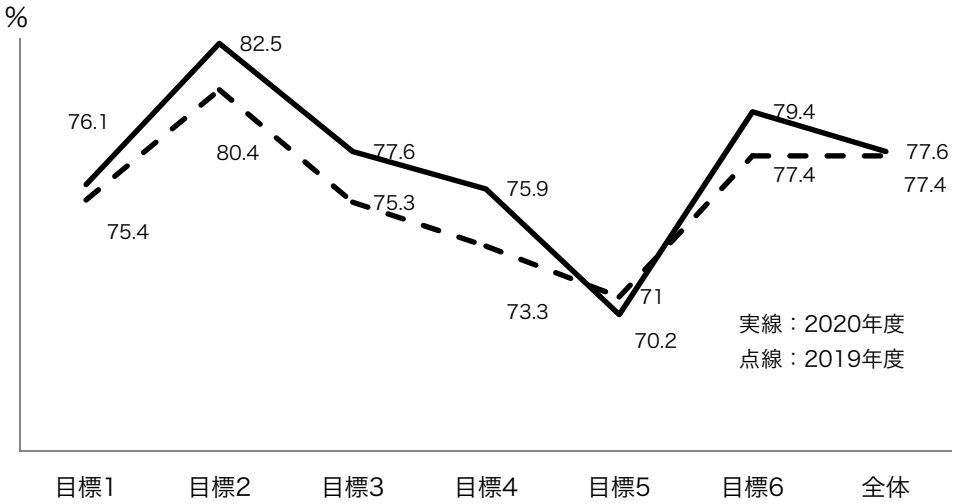
Ⅲ．授業の成果

第3回と4階の授業で「大学で看護を学ぶ意味」について問うたところ，学生は人間関係を築くためのコミュニケーション力や援助的関係を築く態度などの看護専門職者としての知識・技術・態度を身につけること，倫理観や社会人基礎力などの大学の学生としての課題を学習すること，探求心をもち生涯学習を継続するなどの成人学習者としての態度を養うことや自己を理解し自己決定できることととらえていた．Web授業であったが，大学生としての自己，看護学生としての自己，生涯学習を続ける看護者であり成人学習者としての自己を学びとらえたことが窺えた．本科目と同時に進行していた看護学概論Ⅰなどの学習で学んだ記述もあり，既習学習を生かして学習を深めていた．また，看護師になるという共通の目標をもつ仲間との出会いを期待し，学習意欲を高めている様子も見られた．

理科と数学のWebClass上に再掲載した復習課題の利用状況は，どちらも86人中80人が利用し，復習課題1は延べ479回（1人あたりの利用回数は1～28回），復習課題2は延べ360回（1人あたりの利用回数は1～28回）であった．計算問題は，昨年度の試験結果と比較して，平均点が10点ほど高く60点以下の人数が10人ほど少ない結果だったことから，課題は復習に効果的であったと考える．

全8回の授業の到達度については，毎年，学生に％による自己評価を求めている．コロナ禍により，学習到達度の自己評価にどのような変化が見られたのか前年度と比較した．今年度の学年の自己評価は高い傾向はあるが，全体的には前年度とあまり変わらない結果であった．しかし，計算演習については，到達度を低く評価している学生の割合が，前年度よりやや多い傾向が見られた．（図1）

科目全体に対する学生による授業評価では，講義もわかりやすく，対面での授業が楽しかったなどの肯定的意見が多かった．しかし，フェイスシールドに不慣れであったことや提出物の指示を早く伝えてほしいという要望も見られた．



目標1　成人の学習の特徴を述べ、自己洞察と生涯学習を続けることの意義を説明できる。
目標2　他者の意見を聞き、立場を理解し、かつ自分の意見をわかりやすく述べることができる。
目標3　論理的な思考をもとに根拠に基づいた看護を実践することの意義を説明できる。
目標4　医療関連の文献や統計資料の検索法を説明できる。
目標5　数学や理科の知識を応用し、輸液量や速度、輸液中の薬物濃度などを演算子説明できる。
目標6　レポートや論文の定型的な構成を述べ、作成上の留意点を説明できる。

図1　学生の自己評価による学習到達度

Ⅳ．今後の課題

1．Web授業における課題

Web授業を行ってみて，授業時間内での確認テストの実施や，繰り返し利用できる復習課題の提示できる点は非常に有用と感じた．また，レポートの講評などを資料として随時提示できることは便利であった．一方で，Web授業では，学生の態度や表情が見えず，授業中の学生の理解度を把握するのが難しい．授業後のアンケートでは，学生の対面授業への期待が高いことが伺えたが，Web上に提示された課題や資料をどれだけ活用できるかということも，学生自身のやる気と努力に依存する．また，Web授業をスマートフォンの小さな画面で受講している学生もいる．時に1時限から5時限まである授業を，集中力を切らさずに受講し続けるのは難しい．特に，高等学校より長い1コマ90分の大学の授業を，初めて体験する1年生である．学生のモチベーションの維持，向上がWeb授業における最も大きな課題であると思われる．

今年度は，準備期間も充分でないままに授業開始となったが，今後は，システムの使い方だけでなく，活用方法や勉強方法を含めたWeb授業に関する事前説明を行い，Web授業の進め方について学生と教員が共通認識を持つ必要があると考える．また，配信内容や配布資料を厳選し，資料を有効に使うと同時に，課題について丁寧にフィードバックするなどの双方向のサポートを心がけたい．

2．対面授業における課題

今年度は登校の機会が少なく，対面授業の際に諸連絡や教材の配布，課題の提出など多くの必要事項が生じた．学生の混乱を招かないよう，また負担を考えた配慮が必要であり，学習の進行状況などを理解・共有しながら，効果的な学習方法を検討していく必要があると考える．

ディベートとディスカッションによる授業の際に，はじめは正しい位置であったフェイスシールドが，グループワークをしているうちに次第にずれ，感染防止の意味をなさない学生が見られた．学生が初めて感染防止器具を使用する授業では，フェイスシールドを使用する意味や具体的な使い方について説明する必要があったと感じた．ディベートとディスカッションによる学習効果は非常に高く，次年度も，感染防止への配慮をしつつ，この部分だけは対面授業を行いたいと考えている．